

【開催報告】「生物多様性地方座談会in仙台」

【野生生物課】

平成23年11月13日(日)、仙台市内の仙台国際センターにおいて、東北地方環境事務所主催による「生物多様性地方座談会in仙台」が約120名の参加によって開催されました。

この座談会は、「生物多様性国家戦略」の改定を平成24年度に控え、策定プロセスへの多様な主体の参画を促進するため、全国8ブロックで開催されたもののひとつです。

仙台の座談会では、我が国の生物多様性の現状や保全の取組等について情報を共有するとともに、東日本大震災を踏まえて、生物多様性の保全と持続可能な利用に取り組む東北地方の多様な関係者による意見交換を行いました。

開催にあたり、主催者からの挨拶を兼ねて鳥居所長より「生物多様性を取り巻く昨今の状況について」説明の後、次の方々から話題提供がありました。



- ・東北大学教授 中静 透 氏

「生物多様性の持続可能な利用と震災復興」

- ・NPO法人森は海の恋人 副理事長 畠山 信 氏 仙台国際センターでの座談会の様子

「東日本大震災後の海の様子」

- ・株式会社ホテル佐勘 社長室長 佐々木 圭 氏

「ホテル佐勘の環境への取組について」 ～エコチャレンジ！ゼロからの出発～

- ・宮城県生活協同組合連合会 会長理事 齋藤 昭子 氏

「私たちの暮らしと『生物多様性』を考える」～協同組合の取組～

続いて、話題提供者に萱場仙台市環境局長及び鳥居所長を交えて「生物多様性を地域活動にどう活かすか」をテーマに意見交換が行われました。

パネリストからの主な意見は次のとおりでした。

- 震災復興に生物多様性の視点を活かしていくには、震災によって新たに出来た地形を教育に活用することが考えられる。また、供給サービスとしての食の安全性の面から、海や陸の状況をモニタリングして把握することとそれを発信していくことが重要。
- 震災復興の際に防災面だけを優先して生物の生息地を無くさないように、国で議論して生物多様性の視点を含めていくことが必要。安全を確保出来るなら、かつての良い風景や自然を残していきたい人は多い。
- 生物多様性の主流化が重要であり、そのためには身近なところから自然に親しんでいくための取り組みを行っていく必要がある。「保全」だけでなく「持続可能な利用」が大きな目標であることをもっと伝えていく必要がある。
- トップダウンだけではなくボトムアップで市民が活動を進めていくために、市民と行政が一緒に議論する場を作っていくのが良い。

また、参加者から寄せられた多数のアンケートには、行政に対する厳しい意見もありましたが、行政に期待する意見も寄せられました。

以下にアンケートの一部を紹介いたします。

- 震災後の復旧・復興を進めるにあたり、現状の変化を捉える大切さを理解できた。国は情報と予算、自治体は調整と説得、住民は意見出しと受け入れでより良い東北の発展が図れることを期待する。
- 生物多様性という言葉を知らない人が多い現状が深刻。今回のシンポジウムは有意義だったが、集まった人は関心の高いごく一部の人。一般の人の理解を深めることが必要。
- 生物多様性という言葉がずいぶん浸透した。事業実施前の調査は必要だが、実施後のモニタリングを義務化するようなアセス法の改正を環境省に願う。
- 生物多様性の保全は、研究者、漁師、観光業者、生協、行政それぞれができる取り組みを主体的に行っていくことが話題提供等を通じ重要であると感じた。
- 震災後の3県の沿岸部は戻らないか、元に戻るには相当の年月がかかると思ったが、話題提供から調査で魚が育っていることを聞いてほっとした。がれきは沿岸部に山を作る、道路、防潮堤に使えないか。
- 「生物多様性」最近よく耳にするが、意味するところがよく分かっていませんでした。今日の座談会に参加し、ようやく見えてきました。専門の方だけではなく、一般市民に分かりやすい説明が良かったと思う。 等々。

それぞれの立場での話題提供や意見交換、そして、フロアを交えての活発なやりとりもありました。生物多様性と震災復興の両立は難しい課題ではありますが、改めて生物多様性を考える大変、有意義な座談会となりました。



意見交換の様子